

隠れた名曲から辿る音楽史

Chapter
12

ピアノ科ベーシックコース主教材『ピアノ・レパートリー1・2』で取り上げている作曲家の作品や生涯、当時の時代背景などをとおして、古今東西の音楽の歴史を紐解いていきます。



『ピアノ・レパートリー 2』P.18

序奏とロンド

～「ソナチネ ハ長調」より～

作曲：A.ディアベリ

ディアベリは作曲家としてミサ曲や歌曲、オペラ、ギター曲、ピアノ曲など幅広い作品を手がけましたが、現代で演奏される機会が多いのはソナチネなどのピアノ小品です。

『序奏とロンド～「ソナチネ ハ長調」より～』は、『ソナチネ集 Op.151』に収められている「花瓶」という副題が付いた4曲目の第2楽章(序奏)から第3楽章(ロンド)にあたります。堂々とした序奏から、軽やかに弾むようなロンドへと表情豊かに変化していく、華やかな印象の楽曲です。

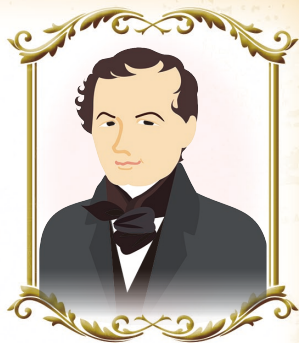
アントン・ディアベリ

(1781年-1858年)

古典派の時代に活躍した、オーストリアの作曲家、音楽教師で、楽譜などの出版商も営んだ人物です。

少年時代は聖歌隊でM.ハイドン(作曲家/F.J.ハイドンの弟)の指導を受けました。修道院の僧侶となりますが、音楽の道を志すようになり、1803年に僧職を辞めてウィーンへ移り、F.J.ハイドンに師事します。

作曲家やピアノ、ギターの教師として活躍した後、友人とともに音楽出版社「カップ&ディアベリ社」を設立。シューベルト『魔王』など人気のオペラや家庭向けの楽譜を出版し成功しました。1819年には、シューベルトやツェルニー、11歳のリストら当時オーストリアで人気の作曲家50人に自らが作ったワルツの主題を元に変奏曲を書いてもらい、曲集を作ることを企画します。このとき、ベートーヴェンは依頼を受けたものの参加せず、数年後に単独でこの主題を用いた『ディアベリのワルツの主題による33の変奏曲 ハ長調 Op.120』を書きますが、これによってディアベリの名は後世にも知られることとなりました。1824年からは会社を「ディアベリ商会」として単独運営し、以降も数多くの作品の楽譜を手がけ、世に送り出しました。



代表作 『ソナチネ集 op.151』、『ギター・ソナタ Op.29』、『華麗な大ソナタ 二短調 Op.102』

ディアベリくんにも聞く

楽譜出版の歴史 ～作曲家と出版社～

※ここで記載している「出版社」とは「楽譜出版社」を指します。



楽器演奏の必須アイテムといえば、「楽譜」だね。現代の作曲家はパソコンで楽譜を作ることもあるけれど、15世紀頃までの楽譜はすべて手書きで、教会などの限られた場所にしかなかったんだ。それが、15世紀半ばに活版印刷術が発明されたことで転機が訪れる。書物を大量に複製することが可能になったおかげで、聖書などの書籍が市場にたくさん出回るようになると、書物は次第に「商品」としての価値を持ち始め、印刷業と出版業が興ったよ。楽譜の印刷は16世紀半ばから本格的に行なわれるようになり、それにともない「楽譜出版(販売)」という新しいビジネスが誕生したんだ。

そして、18世紀末から19世紀にかけて楽譜出版は最盛期を迎える。きっかけは、ボクの生きた18世紀古典派の時代に、ベートーヴェンを筆頭とする作曲家たちが大衆に向けた音楽を作り始めたこと。それまで教会や貴族のものだった音楽が、一般にも広く普及したことで楽譜の需要も高まり、ヨーロッパ各地では出版社が次々と創設されたよ。当時、作曲家にとって出版社は作品を発表できる数少ない窓口であり、楽譜出版は生活を支える収入源の1つだったんだ。作品を書いたら出版社に持ち込むのが当たり前で、作曲家と出版社は非常に密接な関係を築いていたのさ。

20世紀に入ると、技術の進歩とともに音楽産業の中心は楽譜から演奏録音へ、出版社からレコード会社へと移っていった。けれども、今でも数百年前のクラシック音楽に触れることができるのは、作曲家と楽譜、そしてそれを支えた出版社の存在があったからなんだよ。

楽譜の歴史

楽譜と記譜法(書き方)の歴史を簡単に紹介するよ!

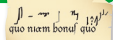
紀元前～ 文字譜

現存する最古の楽譜(文字譜)は、なんと紀元前、古代ギリシアの時代までさかのぼる。音の高さを文字や記号で表わしたものを石に刻んだり、パピルス(古代の紙)に書いていたよ。



9世紀～ ネウマ譜

現在の楽譜の原型。旋律の動きを「ネウマ」という記号で表わし、10世紀頃には音程を示す横線(譜線)が追加され、13世紀にはネウマの形が現在の音符に似た四角形になったよ。



13世紀～ 定量(計量)記譜・タブラチュア(泰法譜)

定量(計量)記譜とは、ネウマ譜から発展し、音符の形状の違いで音の長短を表わした楽譜のこと。

タブラチュアは、楽器演奏のために視覚化した楽譜で、リュートの泰法譜は現在のタブ譜の原型だよ。



17世紀頃～ 五線譜

17世紀頃に譜線の数が5本に定着し、現代に至るまで、ほとんどの西洋音楽で用いられるようになるよ。



ピアノ・レパートリー 1・2

～時代様式、スタイルを学ぶ～

「ピアノ・スケッチ」を修了程度のお子さまから大人の初心者の方までを対象に、著名作曲家の作品を中心として、四期(バロック、古典、ロマン、近現代)それぞれの時代様式の特徴がよく表われている楽曲を集めたテキストです。



ピアノ・レパートリー 1

- 定価: 1,000円+税
- 品番: T31-114
- 対応級: ピアノ科ベーシックコース 5～2級
- 収録曲: 全15曲



ピアノ・レパートリー 2

- 定価: 1,000円+税
- 品番: T31-115
- 対応級: ピアノ科ベーシックコース 3～2級
- 収録曲: 全12曲

対応SMFミュージックデータ [1巻: 6曲セット / 2巻: 4曲セット] 定価: 各800円+税
『ローランド ネットワーク サービス』会員専用ページにてダウンロード購入いただけます。